

一服の茶でオモテナシ



11月7日に、市内に4席が設けられた小江戸川越大茶会。庭園の木々が、色づき始めた中院(小仙波町5丁目)

の席では、田口由紀さん(49歳・宮元町)が「居心地が良く、初心者でも楽しめる心配りがうれしかったです」。

蓮馨寺の席では、妻と友人夫妻で観光に来たフランス人のジョン・グジョンさん(30歳)が「庭がきれいですね。茶を飲むと穏やかな気持ちになります」と日本文化を味わっていました。

ひまわり

ふおとこぶと

ひまわり

ふおとこぶと

ひまわり

2年連続金賞

川越奏和奏友会吹奏楽団が、松山市で行われた全日本吹奏楽コンクールで、昨年に続き金賞を受賞。団長の石川龍彦さん(写真右)は、「良い演奏ができました。皆さんに楽しんでもらえるように、さらに練習に励みます。次は、年末の演奏会。団員一同、頑張ります」と、すでに新たな目標へ動き出しました。



川合善明市長に喜びの報告



ら聴き入っていた渡辺雄之介さん(73歳・小堤)は、「蔵の中で聴く音楽は、川越らしさが感じられていいですね」と話してくれました。

蔵の響き

蔵をコンサート会場に、11月13日と14日にジャズやラテンなどのライブが行われました。市内や首都圏の大学・社会人の7グループが参加。音楽に合わせ、リズムを取りなが

行って 会って 体験
気になるイベントや人を紹介

小江戸ある寺

ひまわり

防犯は、無理なく、無駄なく

「カチ、カチ」。夜に響く拍子木の音。戸締り・火の用心を呼びかけ、不審者に目を光らせる防犯活動が多くの自治会で行われています。

今年で五年目の郭町一丁目自治会の防犯活動では、ほぼ毎日、地区内を巡回。一人暮らしのお年寄りからは、拍子木の音を聞くと安心すると言われます。会長の長沢英機さん(66歳)は、「頼りにされていると思うとうれしいですね。こちらも励まされたい」とこやかに話します。毎日見回ることにより、防犯灯の切れもすぐに分かるので、早く対応できるそうです。



の「石二鳥です」と、活動当初から拍子木を打つ増田勇徳さん(65歳)。個人で参加するほか、月に一度行う組単位での活動は、負担を減らすため、五か月ごとの分担です。

志多町自治会の防犯活動は、毎月第一〜第三日曜日の夕方に行われま

す。新河岸川沿いの細い道や行き止まりの道の奥、車が入り込めないような道まで熟知した、地域ならではの視点が生きます。活動は、自治会や老人会、山車の運営にかかわる弁慶会などが分担。参加者の予定や体調に合わせて、負担にならない参加を求めるようにしています。



子供たちの下校時刻に合わせた見守り活動では、学年により、帰りの時間がまちまちなので、日に三回立つことも。「家の近くなので負担にはなりません。元気にあいさつする子供たちの顔が何より楽しみ」と話す谷島健一さん(69歳)。自治会は毎年「おしゃべりの会」を実施。「反省点や改善点を話し合い、引き継いでいます」と会長の吉野貞さん(72歳)。無理をせず、出来る範囲で行うことが、活動を長続きさせるコツという両自治会。そこには、安全で安心して暮らせるまちを願い、活動する姿があります。